

第14章 福島県立図書館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した福島県立図書館『学びの環境づくり』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに「図書館の図書館」として市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成19年度には『学びの環境づくり』を実現するために、重点的に取り組むべき施策として、5つの柱を中心に『県民を支える図書館 アクションプラン』（平成20年度～24年度）を策定した。本プランは、実行期間を概ね5年間とし、年度ごとに事業評価を行い、必要に応じて改訂を行うものである。

また、平成22年3月に策定された「福島県子ども読書活動推進計画（2次）」（平成22年度～26年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『県民を支える図書館 アクションプラン』5つの柱

(1) 「図書館の図書館」として図書館振興を図ります

- ・市町村立図書館支援
- ・図書館未設置町村支援
- ・学校図書館支援
- ・高等教育機関図書館・類縁機関との連携
- ・情報・物流ネットワークの整備

(2) 県民の暮らしのお役にたちます

- ・県民の暮らしに役立つ情報提供
- ・地域や世代による情報格差の解消
- ・多様なメディア活用による情報提供
- ・情報提供環境の整備

(3) 働く人のお役に立ちます

- ・働く人に役立つ情報提供
- ・これから働く人への情報提供
- ・各種団体・企業への情報支援
- ・行政機関への情報支援

(4) 地域と文化を育むお手伝いをします

- ・文化事業の開催
- ・読書普及活動
- ・地域資料の収集・提供及びデジタル化
- ・ボランティアとの連携
- ・デポジットライブラリーの整備

(5) 学ぶすべての人を応援します

- ・児童サービス
- ・ヤングアダルトサービス
- ・一般成人サービス

- ・障がい者サービス
- ・多文化サービス
- ・来館できない人のためのサービス

2 図書館協議会

(1) 図書館協議会委員名

[任期：平成23年10月21日～平成25年10月20日]

区分	氏 名	所 属 団 体 等（主な役職名等）
学 識 経 験 者	千 葉 養 伍	福島大学人間発達文化学類教授
	土 田 節 子	いわき明星大学人文学部現代社会学科准教授
	多 田 勢 子	株式会社福島民報社
	加 藤 卓 哉	福島民友新聞社株式会社
	郡 司 浩 子	公募(矢祭町学校教育支援員、塾講師)
	坂 井 勢 子	公募(福島市特別教育支援員)
家 庭 教 育	伊 藤 美 千 代	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
社 会 教 育	山 中 淳 子	福島県公共図書館協会（郡山市安積図書館長）
学 校 教 育 関 係	佐 藤 淳 一	福島県高等学校長協会（福島県立福島南高等学校長）
	鈴 木 力 雄	福島県中学校長会（会津若松市立北会津中学校長）

（会長）千葉 養伍 （副会長）土田 節子

(2) 会 議

第1回 平成24年1月24日 於：県立図書館

（議題等）

- ・平成23年度4月～12月分利用実績について
- ・「県民を支える図書館」アクションプラン事業進捗状況について
- ・震災後における県立図書館の動きについて
- ・東日本大震災に係る資料収集方針について

3 東日本大震災の被害状況とその後の対応

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、館内のほとんどの図書が落下し、12,344冊の図書が破損した。建物では、公開図書室の壁面大型ガラス6枚が割れ、室内天井の空調ノズル63個が落下、軒天井のパネルも落下やひび割れなどの大規模な被害となった。

また、駐車場アスファルトの亀裂や通路等の石畳の破損も数カ所発生した。

このため、地震発生直後より休館を余儀なくされたが、駐車場や石畳等の修理を行い、被害を免れたエントランスホールや事務棟の研修室を活用し、平成23年7月15日に一部開館し貸出や閲覧、インターネット等のサービスを再開した。

建物の復旧については、5月に予備調査を実施し、8月に復旧工事設計委託を行い、11月下旬の災害復旧事業現地調査（災害査定）を経て、平成24年1月より災害復旧工事に着手した。

第2節 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「県民を支える図書館アクションプラン」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために多様な分野の基本資料の収集と迅速な整理に努めた。

特に、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に地震、津波、原子力、放射線等の資料の収集に力を注ぎ、「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の開設に向け準備を整えた。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。

震災関連として、地震・津波、原子力災害、復興・防災、エネルギー問題等の資料の収集に努めた。

また、調査相談に対応する各種参考図書、大活字本、育児・子育て支援に役立つ資料の充実を図った。

(2) 地域資料の収集

福島県に関する資料と福島県人著作の網羅的収集を基本方針に、非売品等の資料については個人・団体・機関等からの寄贈により収集を行った。

重点収集として、当県に関わる震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料の収集に努めた。

(3) 地域視聴覚資料の収集

震災関連として、製作点数は少ないが被害状況や災害派遣活動などの記録映像の収集に努めた。伝統芸能、民話、地元新聞のCD-ROMなど視聴覚資料として保存価値の高いものを収集した。

(4) 児童資料・研究資料の収集

ア 児童資料

「こどものへや」については、市町村のモデルとして、その機能が十分発揮できるよう乳幼児から中学生までを対象とした資料を幅広く収集した。

重点収集として、子育て支援に役立つ乳幼児向け資料の充実を図った。

イ 研究資料

「児童図書研究室」については、児童図書に関する研究資料、児童の読書や児童サービスに関する資料を収集した。また、研究用児童資料受賞図書、比べ読み絵本、バリアフリー絵本等も収集した。

特に本年度は、子どもの読書活動推進のために、読

み聞かせ用大型紙芝居、ビッグブック、パネルシアター、エプロンシアター及び専用舞台等についての整備充実を図った。

ウ 新聞・雑誌

児童用の新聞や雑誌、児童図書研究用の雑誌についても、引き続き収集した。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

東日本大震災の影響を受け、新聞社・出版社の刊行等にも困難な状況がしばらく続いたが、発行された刊行物については欠号とならないように収集に努めた。

(6) 市町村支援用資料の収集

移動図書館などの市町村支援資料は、図書館環境から遠方にある過疎・中山間地域の県民サービスに役立つ新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	23	50	73
雑 誌	164	820	984
官 報 等	3	0	3
合 計	190	870	1,060

資料受入状況 (単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	5,117	4,261	9,378
地 域 ・ 行 政 資 料	1,115	4,720	5,835
児 童 図 書	2,521	440	2,961
児 童 図 書 研 究 書	394	322	716
市 町 村 支 援 資 料	1,391	3,710	5,101
合 計	10,538	13,453	23,991

資料受入状況・推移 (単位：冊)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
40,766	13,716	23,991

分	類（区 分）	22年度累計	23年度増加	23年度除籍	利用替え	23年度累計
一般資料	0 総 記	30,052	379	14	-3	30,414
	1 哲 学	23,775	387	16	2	24,148
	2 歴 史	58,389	1,627	113	4	59,907
	3 社 会 科 学	93,712	2,269	156	3	95,828
	4 自 然 科 学	32,580	944	96	3	33,431
	5 工学・工業	31,077	906	82	4	31,905
	6 産 業	25,537	461	38	-1	25,959
	7 芸 術	35,608	906	39	10	36,485
	8 語 学	8,653	244	11	1	8,887
	9 文 学	87,304	1,255	80	17	88,496
	計	426,687	9,378	645	40	435,460
地域資料	0 総 記	13,030	346	1	0	13,375
	1 哲 学	2,337	65	2	0	2,400
	2 歴 史	30,514	983	6	2	31,493
	3 社 会 科 学	50,885	1,543	9	3	52,422
	4 自 然 科 学	7,133	376	3	0	7,506
	5 工学・工業	9,568	764	3	1	10,330
	6 産 業	18,004	307	3	1	18,309
	7 芸 術	12,113	310	6	0	12,417
	8 語 学	736	16	0	0	752
	9 文 学	21,698	1,125	5	0	22,818
	計	166,018	5,835	38	7	171,822
児童資料	研 究 資 料	32,345	716	7	2	33,056
	児 童 図 書	94,019	2,961	32	38	96,986
	計	126,364	3,677	39	40	130,042
逐次刊行 物資料	雑 誌	130,665	4,924	44	1	135,546
	新 聞 合 本	14,054	233	0	0	14,287
	新聞記事ファイル	3,823	0	0	0	3,823
	計	148,542	5,157	44	1	153,656
特 殊 文 庫	61,753	0	0	0	61,753	
館 内 用 計	929,364	24,047	766	88	952,733	
市 町 村 支 援 計	71,963	5,101	759	-88	76,217	
合 計	1,001,327	29,148	1,525	0	1,028,950	

第3節 館内奉仕

震災直後より休館を余儀なくされたが、7月15日からエントランスホール・こどものへや等で部分開館を実施し、限定的ではあるが業務を再開した。被災した公開図書室への来館者立入りは禁止し、利用要望のあった資料の出納はすべて職員が行った。

部分開館と並行して資料の点検作業を行ったため、全資料の利用提供が可能となったのは9月からである。

開館日は209日、入館者は85,545人、1日平均の利用者は409人で前年度の約2分の1であった。

入館者数

開館日数	209日
入館者数	85,545人
（1日平均）	409人

入館者数・推移

（単位：人）

平成21年度	平成22年度	平成23年度
237,729	232,133	85,545

1 調査相談（レファレンス）

調査相談業務は、全資料の利用提供が可能となった9月から再開した。公開図書室の復旧工事開始に伴い参考図書を書庫へ移動するなど、業務へ支障をきたさぬよう努めた。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小 計
口 頭	2,668	901	3,569
電 話	428	50	478
文 書	32	2	34
F A X	30	1	31
電子メール	119	0	119
合 計	3,277	954	4,231

調査相談件数・推移 (単位：件)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
11,106	12,591	4,231

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度
ト ッ プ ペ ー ジ	142,697	171,916	143,057
蔵 書 検 索	103,732	174,859	144,047
横 断 検 索	72,138	113,701	134,367
デジタルライブラリー	4,756	5,055	5,223
こ だ も の へ や	3,338	3,885	4,671
県内図書館(業務用)	21,631	19,318	14,174

2 館内サービス

7月15日からの部分開館では、エントランスホールにカウンター（総合案内・返却、貸出）を設置し、ホール回りに書架、蔵書検索端末、複写機等を配置した。また、軽読書コーナーは、震災直後からの地元紙をはじめとする各種新聞の閲覧場所としたほか、資料の閲覧室を3階研修室に設け、インターネット端末を配置した。

3 館外個人貸出

公開図書室の復旧工事に伴い、資料の一部を利用制限とせざるをえなくなったため、12月下旬より個人貸出冊数を10冊から20冊へ変更した。

登録者数は15,005人、貸出冊数は71,294冊、のべ人数は19,792人で、冊数、のべ人数とも前年度の4割弱であった。

資料宅配サービス（有料）は7月15日より県内全域をサービス対象とした。利用は30件215冊であった。

館外個人貸出状況

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	1,049	1.5	語 学	669	0.9
哲学・宗教	1,706	2.4	文 学	9,017	12.7
歴史・地理	3,220	4.5	地 域 資 料	4,079	5.7
社 会 科 学	5,488	7.7	雑 誌	2,936	4.1
自 然 科 学	3,261	4.6	小 計	38,935	54.7
工学・工業	3,504	4.9	児 童	32,359	45.4
産 業	1,097	1.5	合 計	71,294	100.0
芸 術	2,909	4.1			

館外個人貸出状況・推移

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
冊 数	186,868	187,663	71,294
の べ 人 数	45,341	50,457	19,792

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年） (単位：人)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合 計
新 規	4,173	4,171	2,019	10,363
更 新 者	1,815	1,831	996	4,642
合 計	5,988	6,002	3,015	15,005

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
17,803	17,865	15,005

4 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	3	175
図 書 館 そ の 他	18	90
会 社 ・ 事 業 所	12	544
報 道 関 係	2	15
学 校	30	38
計	65	862

特別貸出状況・推移		(単位：冊)
平成21年度	平成22年度	平成23年度
261	1,066	862

5 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体・公的機関等から多種多様な調査相談が寄せられていることから、迅速な対応を心がけつつ、的確な回答を導き出せるよう資料の整理・調査に取り組んだ。

また、7月15日からの部分開館時より「東日本大震災―福島県―地震・津波・原発問題」のミニ展示を行い利用促進に努めた。

6 逐次刊行物

震災関連情報を、特に被災地域住民に提供するため『3.11からの福島の新聞』と『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』（相双地域10市町村分と風評、損害賠償）を継続発行した。

震災以降休止していた『ビジネス支援通信』は、12月より復刊した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』については、避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町村以外から回答を得て発行した。

平成22年度2月補正予算において、国の交付金“知の地域づくり拠点事業”を活用して新聞記事をデジタル化しパソコンで閲覧できる「図書館新聞記事データベース整備事業」に取り組んだ。

7 児童サービス

子どもの読書活動推進のために以下の事業を行った。

- (1) こどものへやでは、資料の貸出・調査相談をはじめ、推奨する資料の展示や紹介を行った。

読書普及事業として、乳幼児とその保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（月一回、今年度は7回）と、児童を対象とした「おはなしかい」（期毎、今年度は4回）を開催した。「おはなしかい」の概要については次のとおり。

- ・夏期「図書館で実験？！作って学ぼうかんたん湿度計 サイエンスフラワー」
- ・秋期「アートなおはなしかい」県立美術館との連携。
- ・冬期「～のぞいてみよう やってみよう 縄文のくらし～」本でのぞこう 縄文のくらし」

福島県文化施設6館連携事業として当館と県文化財センター白河館で開催した。

また、協力支援事業として図書館見学の受け入れを行った。施設見学や利用案内、読書への動機づけとして読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会を提供した。

さらに、思春期の子どもたちのための読書案内誌『LI

TTLE BIG』を発行し読書普及に努めた。

- (2) 児童図書研究室では児童サービス関係者や児童図書研究者への資料の貸出・調査相談を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動に関わる人たちに対して積極的な情報提供を行い、活動の支援に努めた。

さらに、『児童図書研究室ニュース』を発行し、県内外の児童サービス関連情報を提供した。

- (3) 「福島県立図書館「読書」と科学プロジェクト事業」の一環として、福島大学が主催するspff（ふくしまサイエンスぷらっとフォーム）と連携協力し、次の事業を行った。○「わくわく科学コーナー」の設置。

科学実験器具と科学読み物の展示コーナー。

○科学をテーマにしたおはなしかいの開催。（前述）

○『児童図書研究室ニュース』での「科学小話」連載スタート。

spff会員の科学コラムと関連する児童資料の紹介。

8 複写サービス

7月15日からの部分開館時には、スペースなどの問題があり設置したコイン式コピー機は1台である。

業務についても縮小していたため、複写利用状況も大幅減となった。

複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自 館 処 理	2,375	27,867

複写利用状況・推移

(単位：枚)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
75,221	73,138	27,867

9 来館者用インターネットコーナー

7月15日の部分開館から3階閲覧室（第1研修室）にインターネット端末6台を設置した。10月からの夜間開館再開ではエントランスホールへ1台移動し、端末利用者への便宜を図った。なお、こどものへやには従来どおり2台設置した。

インターネット利用状況

区 分	件 数
一 般	3,395
児 童	157
合 計	3,552

インターネット利用状況・推移

(単位：人)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
10,278	9,149	3,552

10 展 示

本年度は部分開館にあわせ再開した。

(1) 展示コーナー企画展示

ア「災害を乗り越える！私たちのふるさと展」
(平成23年7月15日～11月30日)

再開特別企画として、県民がふるさと福島の美しさや素晴らしさを再確認し、震災を乗り越える活力とすることを願い開催した。福島県の文化・歴史・自然についての資料をはじめ、今回の災害・復興を記録した資料や過去の災害の資料も展示した。また、県内全市町村のシンボルマークを掲示し、それぞれの自治体に関連する明るいニュース（新聞記事）を「ふるさとスマイルニュース」として紹介し、期間中随時更新した。

イ「福島大学発！ 文壇に羽ばたいた2人の卒業生」
(12月2日～12月27日)

福島大学を卒業し文学の世界で活躍中の作家・中村文則と詩人・和合亮一に関連する資料（福島大学図書館所蔵）を展示した。また、「2氏から福島の若者へのメッセージ」なども紹介した。

◆交換展示として次の展示を福島大学図書館で開催した。

○「ふくしま 一目瞭然！」

前期（10月6日～11月2日）

後期（11月2日～12月1日）

昭和の福島県全域を描いた鳥瞰図や、明治の福島の姿を映した写真帳や郷土かるた、東日本大震災関連資料などを展示した。

ウ「文化6館連携企画 福島県文化財センター白河館
「まほろん」収蔵資料展 原始・古代の土器・石器」
(平成24年1月6日～2月29日)

福島県文化施設6館連携事業として企画開催した。福島県文化財センター白河館「まほろん」の収蔵資料から、福島市近郊の遺跡から出土した原始・古代の土器や石器を展示した。

◆関連事業として次の事業を開催した。

○講座「ふくしまを知る「まほろん」収蔵作品から見た
“ふくしま”の原始・古代」（1月28日）

講師は、福島県文化財センター白河館「まほろん」学芸課長芳賀英一氏。

○お話し会＋ワークショップ

「ふゆのおはなしかい～のぞいてみよう やってみよう
縄文のくらし～」(2月4日)

小学生とその保護者が対象。当館職員による読み聞かせや本の紹介と、「まほろん」職員による縄文木こり体験のワークショップを行った。

○お出かけ県立図書館！（2月19日）

「まほろん冬まつり」（白河館）にて、「おはなしかい」の開催と移動図書館車「あづま号」の巡回を行った。

エ「3. 11からの8784時間～そして これから～」
(3月2日～4月22日)

東日本大震災からの1年間を、当館所蔵資料と地元新聞社から借用した貴重な報道写真パネルで振り返る展示を行った。災害発生時の状況からその後の暮らしの様子などを紹介した。

(2) ロビー展示

ロビー通路壁面を利用し、情報発信活動の一環として、県民に作品発表の場を提供する企画で、震災後休止していたが、部分開館と同時に再開した。

ア「文化6館連携企画 まほろん開館10周年記念パネル展」(7月15日～8月31日)

開館10周年を迎える福島文化財センター白河館「まほろん」の様々な活動をパネルや収蔵品で紹介。

イ「第3回 網代澄亭と一門による刻字展」

(9月2日～10月5日)

網代澄亭氏（福島市在住）とその一門の方々による刻字作品展。

ウ「災害を乗り越える！私たちのふるさと展 とびつき
り！ふるさとスマイルニュース」

(10月7日～11月1日)

前述の展示コーナー企画展示「ふるさとスマイルニュース」のセレクト版展。

エ「福島信夫ライオンズクラブ 平和ポスターコンテスト
作品展」

(11月3日～11月30日)

福島市立第二小学校の5・6年生による平和ポスターコンテスト応募画作品展。

オ「第9回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品展」

(12月2日～12月27日)

猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会が平成22年度に開催したフォトコンテストの入賞作品展。

カ「かんの無生の書と水墨画展」

(1月11日～2月1日)

菅野佳伸氏（福島市在住）の書と水墨画の展示。

(3) 特別展示

ア「応援メッセージ展」

(7月15日～7月24日)

今回の震災に対し、ハワイ、シンガポール、鹿児島の子どもたちから福島県に届いた応援メッセージカードや折り鶴を展示した。メッセージカードの英語翻訳については、桜の聖母短期大学の協力を得た。（会場は第2研修室）

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」

図書館未設置町村の、図書館活動の促進を図ることを目的として、資料の援助や公民館図書室の運営相談を行った。
本年度の利用状況は次のとおりである。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位：冊数)		
平成21年度	平成22年度	平成23年度
29,890	31,312	22,021

2 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、図書館・公民館図書室の充実化を支援した。
本年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,300冊
金山町教育委員会	170冊
川俣町教育委員会	559冊
只見町教育委員会	584冊
平田村教育委員会	727冊
会津美里町教育委員会	52冊
西会津町教育委員会	300冊
合 計	4,732冊

3 福島県立図書館資料の譲与

資料の再活用が充分見込まれる図書館や公民館等に対して、福島県立図書館の資料を譲与し、蔵書の充実を支援した。
本年度の利用状況は次のとおりである。

川俣町教育委員会	152冊
南会津町教育委員会	300冊
西郷村教育委員会	248冊
合 計	700冊

4 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出を行い、学校図書館資料の充実を支援した。
本年度の利用状況は次のとおりである。

県立郡山萌世高等学校	120冊
福島成蹊高等学校	114冊
県立いわき総合高等学校	368冊
合 計	602冊

5 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ（延べ269セット）を編成し貸出を行った。
本年度の利用状況は、21団体（延べ54件）に対し54セット（2,352冊）を貸し出した。

6 広報資料の発行

- (1) 館報「あづま」
東日本大震災に伴い、発行中止。
- (2) 平成23年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から毎年、県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書にまとめ、県内市町村教育委員会、図書館、公民館等にデータの提供を行うとともに、県立図書館ホームページに掲載した。
なお、主な調査結果として、平成23年4月1日現在、市町村図書館と公民館図書室の合計蔵書冊数は5,694,850冊で、県民1人当たり2.89冊（前年度2.89冊）、年間増加冊数は△187,353冊である。
また、平成22年度中の貸出図書冊数は、6,858,345冊（県民1人当たり3.49冊）であり、前年度と比べると総冊数では、757,073冊の減である。

(3) 福島県郷土資料情報
当館の地域資料で所蔵する貴重資料や福島の児童文学者などを紹介した第51号を発行し、県内の図書館や類縁機関へ配布した。発行部数 240部

第5節 図書館協力

1 相互協力と遠隔地返却

7月15日からの部分開館と同時に相互貸借業務を再開した。
全資料の提供が可能となったのは9月からだが、相互貸借冊数は前年度の6割にとどまった。

相互貸借状況

区 分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸 出	618	3,645	206	351	824	3,996
借 用	79	101	66	101	145	202
小 計	697	3,746	272	452	969	4,198

相互貸借状況・推移

(単位：冊)

くふくネット」を締結し、資料の相互返却等を可能にした。

平成21年度	平成22年度	平成23年度
8,746	6,823	4,198

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）

(単位：冊)

平成21年度	平成22年度	平成23年度
5,861	6,794	2,577

2 県内図書館職員研修会

図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

(1) 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- ア テーマ 「図書館に『さいえんす』を
～科学普及活動から図書館利用を考える」等
- イ 期 日 平成23年9月22日
- ウ 会 場 県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員
等 49名
- オ 講 師 福島大学准教授 岡田 努 氏

(2) 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- ア テーマ 「演習 資料の修理と製本
～図書館員に求められる手段と技術」
- イ 期日及び会場
 - 平成23年10月18日 白河市立図書館 19名
 - 平成23年10月19日 須賀川市図書館 21名
 - 平成23年11月 1日 会津若松市立会津図書館 21名
 - 平成23年12月14日 県立図書館 25名
- ウ 参加者総数 86名
- エ 講 師 国立国会図書館職員 他

3 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館と公共図書館との協力体制として「福島県内大学図書館間相互利用制度」があり、その制度の主な柱は、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」である。

この制度利用参加市町村立図書館は、県立図書館を含め福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館の20館である。

また、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館との間で、相互協力に関する協定「ふ